

# 旭川医科大学基金

令和元年度 活動報告書

Asahikawa Medical University Fund Annual Report 2019 – 2020

## ご挨拶

平素より旭川医科大学の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本学は、昭和48年の建学以来、一貫して「地域医療に根ざした医療・福祉の向上」を理念に掲げ、「医師・看護職者の育成」、「研究の推進」、「地域医療の充実」のため、積極的に活動を展開してまいりました。その成果は、教育・研究・診療・社会貢献のいずれの面におきましても多大なものがあると自負いたしております。これもひとえに、地域の皆様のご支援の賜物と存じ、深く感謝申し上げます。

しかしながら、広大な北海道の医療を取り巻く状況には、医師の偏在に伴う地域間の医療格差や超高齢社会など、依然として厳しい課題も残されております。本学が皆様の期待に応え続けるためには、地域医療に貢献できる医療者や研究者の養成の拠点として、また、地域医療を支える中核病院として、今後、ますますの充実・発展を期していかなければなりません。

本学は、自らに課せられている役割・責任の重さを痛感し、教育・研究・医療・社会貢献のすべての面で一層の充実・発展を図り、今後も新たな挑戦を続けていく所存ですが、そのためには、より安定した財政基盤の確立も必要となってまいります。

そこで本学は、平成28年10月に独自の「旭川医科大学基金」を創設し、地域の皆様に広くご寄附をお願い申し上げることといたしました。

本学は令和5年に創立50周年を迎えます。さらにその先も見据え、地域の皆様に医療・福祉を通じて幸せで豊かな人生を送り続けていただくために、私共一同、さらなる努力を惜しまない所存でございます。何卒、「旭川医科大学基金」へのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

旭川医科大学では、平成16年4月の法人化を契機に、未来の教育・研究・診療の中核となる学生や若手研究者への支援を行うことを目的として「学術振興後援資金」を設立し、募金活動及び支援事業を行ってまいりましたが、創設後10数年を経過し、この「学術振興後援資金」の内容について見直したところ、その用途を学生や若手研究者への支援に限定しており、未来を見据えた地域医療に貢献できる医療者や研究者の養成の拠点として、また、地域医療を支える中核病院として、これからの地域医療の発展のためには、今まで以上の幅広い事業にも対応できるようにすることが肝要と考え、平成28年10月に「学術振興後援資金」を発展的に改組し、新たな「旭川医科大学基金」を創設しました。

創設後は、令和2年3月までの間に、9,700万円を超えるご寄附を賜りました。これもひとえに皆様方からのご理解ご協力の賜と深く感謝申し上げます。皆様のご寄附は、旭川医科大学基金運営委員会での審議・検討のもと、ご寄附の目的に沿って、これからの旭川医科大学での事業の支援に充てていくこととしております。

今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



旭川医科大学  
学 長 吉田 晃敏



旭川医科大学  
学長補佐（大学基金担当）  
原 渕 保明

旭川医科大学基金は、旭川医科大学における教育及び研究活動の充実を図るとともに、地域医療に根ざした医療・福祉のさらなる向上を目指すことを目的として、これまでの学術振興後援資金を発展的に改組し、平成28年10月に創設しました。旭川医科大学基金に対しまして、一方ならぬご理解とご協力を賜り深く御礼申し上げます。

令和元年度収入

寄附受入総額	122件	19,685,010円
前年度からの繰り越し		71,320,904円
利息		889円
その他（過年度返納分）		63,559円
合計（A）		91,070,362円

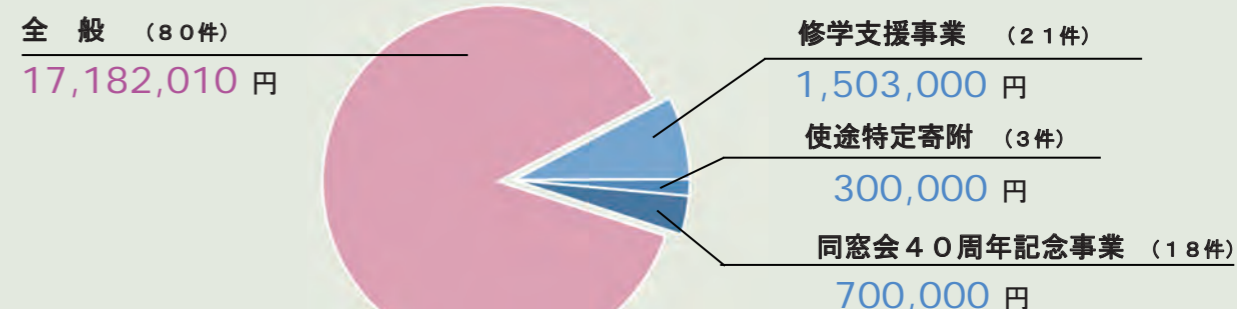
令和元年度支出

支援事業		
●学部学生海外留学助成事業	6件	1,200,000円
●学部学生海外活動助成事業	0件	0円
●学部学生スポーツ国際大会出場助成事業	0件	0円
●大学院博士課程学生支援事業	0件	0円
●留学生支援事業	2件	720,000円
●研究活動助成事業	6件	3,000,000円
●国際学会等派遣事業	0件	0円
●卒業生に対する奨学資金貸与事業	7件	8,400,000円
医学科同窓会40周年記念事業		2,686,635円
事務費		1,001,552円
合計（B）		17,008,187円

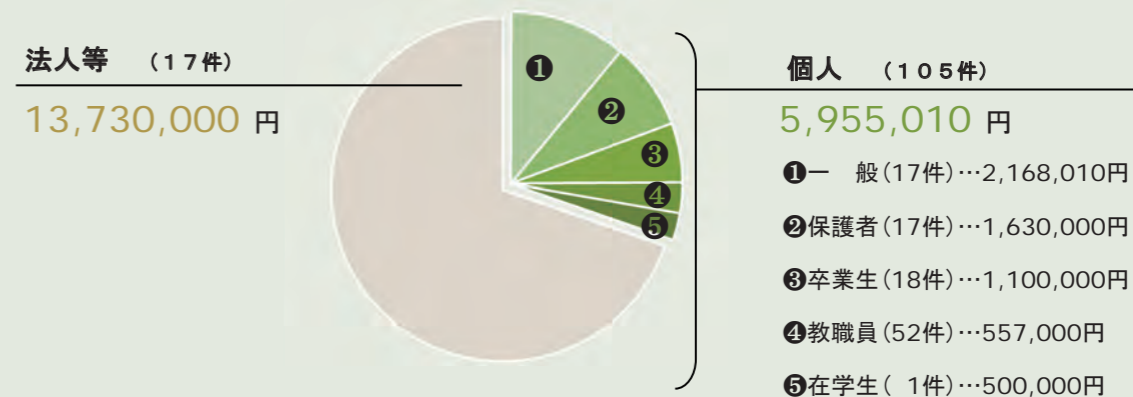
年度末 基金残高（A-B）・・・74,062,175円

令和元年度旭川医科大学基金への寄附内訳

<寄附目的別>



<寄附者属性別>

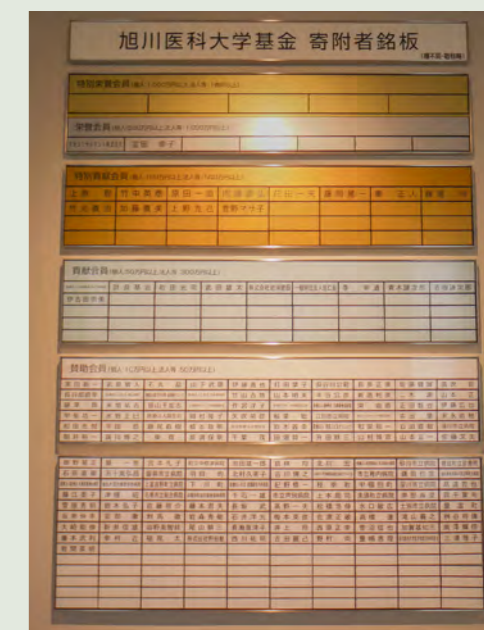


称号件数

旭川医科大学基金創設以降にお贈りした会員の称号件数（累計）は以下のとおりです。

称号区分	寄附金額		個人	法人等
	個人	法人等		
特別荣誉会員	1,000万円以上	1億円以上	0	0
荣誉会員	500万円以上	1,000万円以上	0	1
特別貢献会員	100万円以上	500万円以上	11	0
貢献会員	50万円以上	300万円以上	7	3
賛助会員	10万円以上	50万円以上	102	35

（令和2年3月末現在）

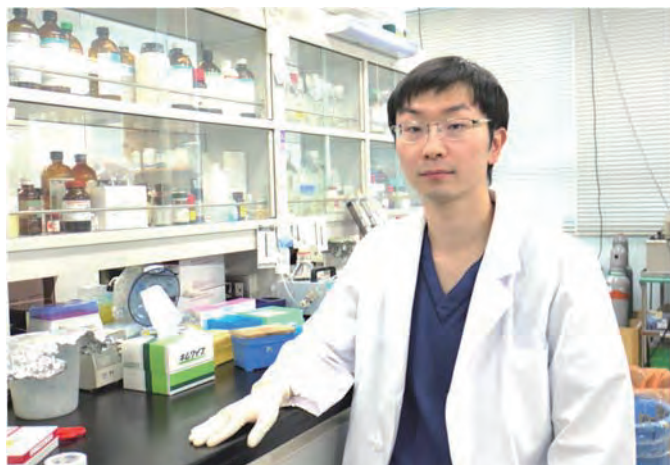


▲ 会員の称号をお贈りした寄附者様のお名前を旭川医科大学病院レストラン「ななかまど」前の廊下に設置しています。

## 令和元年度 支援事業報告

皆様からの温かいご支援は、研究や学生支援など、様々な活動に活用させていただいております。

## 研究活動助成事業



田中 来

第二内科 / 医員



ペーチェット病関連HLA発現リンパ球における低酸素応答制御機構の解明に関する研究

## ■研究概要

ペーチェット病は、皮疹や眼症状を主症状とする慢性再発性の全身性炎症性疾患です。詳細な原因は不明ですが、発症にはヒト主要組織適合抗原HLA(human leukocyte antigen)のHLA-B51及びA26抗原が関わっています。我々は慢性炎症の細胞環境として重要な低酸素環境に着目し、低酸素環境下で様々な遺伝子発現を制御する低酸素誘導因子(HIF)のHIF-3 $\alpha$ の働きについて研究しました。

## ■研究の進捗

HIF-3 $\alpha$ を培養細胞に導入するために、ヒトのHIF-3 $\alpha$ 遺伝子を組み込んだレンチウイルスを作成しました。一般的なヒトの培養細胞である、HeLa細胞へ高効率にHIF-3 $\alpha$ を導入することが可能になりました。次に、HLA-B51、A26抗原陽性の不死化ヒトBリンパ球へHIF-3 $\alpha$ の導入を試みましたが、導入効率が悪く、HIF-3 $\alpha$ の遺伝子発現を確認できませんでした。

## ■今後に向けて

Bリンパ球へのレンチウイルスの感染効率を改善させるため、麻疹ウイルスのエンベロープを持つ、新たなレンチウイルスの作成を検討しています。また、不死化細胞だけではなく、実際のペーチェット病患者様からリンパ球を採取させていただき、解析を行うことで、病態の解明に近づきたいと考えています。

## ■寄附者様への謝辞

この度は、ペーチェット病研究のためにご寄附をいただき誠にありがとうございます。私が専門とする膠原病疾患は、近年、治療法の進歩が著しい分野ですが、原因は未だ不明なものが多く、現在も多くの患者様が病気に苦しんでいます。患者様の力になれるように、今後も研究、臨床の両面で頑張っていきたいと思っております。

## 海外留学助成事業



馬淵 ゆり

医学部医学科 第5学年(留学時)



留学先：フィンランド(トゥルク大学)

私はフィンランド南西部のトゥルクという街にあるTurku University Hospitalの消化器内科で実習をしてきました。今回の留学はIFMSA(国際医学生連盟)の臨床交換留学制度を利用したもので、福祉制度の充実している北欧の医療を見てみたかったことからフィンランドを希望しました。

私は主に朝のカンファレンス、回診、病棟業務、外来での内視鏡検査を見学し、実習最終日には興味をもった症例について短いプレゼンテーションをしました。病棟業務を見学していて印象的だったのは患者さんと会話する時間がしっかりと確保されていることでした。回診時に検査値の変化や薬の説明を丁寧に行い、患者さんも疑問に思ったことを積極的に質問するなど医師と患者さんの間での対話が大切にされていると感じました。

フィンランドでは患者情報を全国の病院間で共有できるシステムが使われており、とても便利だと感じました。また、カルテの入力は音声で行われており、ペーパーワークにかかる時間が大きく短縮され、効率よく業務が行われていると感じました。

2週間という短い期間でしたが、現地の学生の家に滞在し、病院実習に参加し、学生や先生方と関わり、フィンランドの医学生のひとりであるかのような日々を過ごせたことは忘れられない経験になりました。また、英語というたった一つの言語を学ぶだけで、異なる母語を持つ多くの人々との関わりが生まれ、自分の世界が広がっていくと改めて感じ、今後の勉強を続けていくモチベーションとなりました。

この度は、ご支援いただきました皆様、私の留学に関わってくださったすべての方々へ感謝申し上げます。

#### 旭川医科大学基金へのご支援のお願い

旭川医科大学基金への更なるご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

お申し込み方法：①クレジットカード、コンビニエンスストアでの払込

②郵便振替払込

③大学窓口への直接払込

※詳しくは下記より旭川医科大学基金ホームページをご参照ください。

旭川医科大学基金

検索



#### お問い合わせ

旭川医科大学総務部総務課広報基金係

〒078-8510

北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

電話：0166-68-2118

メール：kikin@asahikawa-med.ac.jp